
[成果情報名] 1ha 規模の雇用型イチゴ作経営モデル

[要約] 1ha のイチゴ作経営において所得が最も高くなる ‘あまおう’ の栽培形態・作型の組み合わせを試算すると、土耕栽培の普通作型のみでの経営となる。十分な労働力が確保できない場合、作型の組み合わせやパッケージセンターの活用等で対応できる。

[キーワード] あまおう、イチゴ作、大規模、雇用労働

[担当部署] 食品流通部・経営マーケティングチーム

[連絡先] 092-924-2972

[対象作物] 野菜

[専門項目] 経営

[成果分類] 経営

[背景・ねらい]

福岡県のイチゴ作は年産出額 180 億円におよぶ重要な作物である。しかし、一戸当たりの作付け面積は 20a 程度で停滞し、栽培農家も減少傾向にある。産地の維持には、個々の農家の規模拡大が必要である。そこで大規模イチゴ作経営の育成を図るため、雇用労働を前提とした 1ha 規模の大規模イチゴ作経営モデルを策定する。

[成果の内容・特徴]

1. 常時雇用 を 4 人とした 1ha のイチゴ作経営において、所得が最も高くなる ‘あまおう’ の栽培形態・作型の組み合わせは、土耕栽培の普通作型単一である。この時、出荷最盛期には、21 人のパートが必要となる（図 1）。
2. 出荷最盛期に 21 人のパートが確保できない場合の栽培形態・作型は、土耕栽培の普通作型と株冷作型との組み合わせとなる。パートが減少すると経営規模は 1 ha を割り込む（図 1）。
3. 調整作業の雇用労働を削減するために収穫量の全てをパッケージセンターに委託すると、必要なパート人数は 9 人まで減少し、所得は 847 万円得られる（表 2）。
4. 収穫量の 50 % をバラ詰め出荷すると、販売単価が 87%（1,043 円）まで下がっても最適解モデルと同等の所得が得られる（表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 大規模イチゴ作経営の推進や規模拡大志向農家への指導に活用できる。
2. 収量、雇用条件等が異なる場合には数値を変えることでモデル作成に対応できる。
3. 当モデルでは高設栽培の利点である作業の軽労働化を反映させていない。
4. 出荷ピーク時のパッケージセンター利用に加えて、大規模イチゴ作の調整委託を前提としたパッケージセンター設置に活用できる。
5. モデル作成の試算には「営農技術体系評価・計画システム F A P S 2 0 0 0」を用いた。

表1 経営モデル作成の条件 (平成17～19年)

栽培形態 作 型 ¹⁾	土 耕		高 設	
	普通型	株冷(5型)	普通型	株冷(5型)
労力構成 賃 金	経営主：1人、常時雇用：4人、パート：変動 常時雇用：年間250万円、パート：時給700円			
10 収 量 (t)	4.5	4.5	4.05	4.05
a 販売単価 (円) ²⁾	1,195	1,168	1,195	1,168
当 粗 収 益 (万円)	537	525	483	473
た り 年 間 減 価 償 却 費 (万円)	56	56	97 ³⁾	97 ³⁾
り 労 働 時 間 (時間)	2,068	2,078	1,807	1,810

注)1.モデルは、普通型と株冷(2～5型)の5作型を検討し、標記の2作型がシミュレーションの結果、選定された。
2.販売単価は、平成18年度県内販売実績により作型ごとの平均価格を算出。
3.高設栽培の年間減価償却費は、アグリス方式を導入した場合の金額。

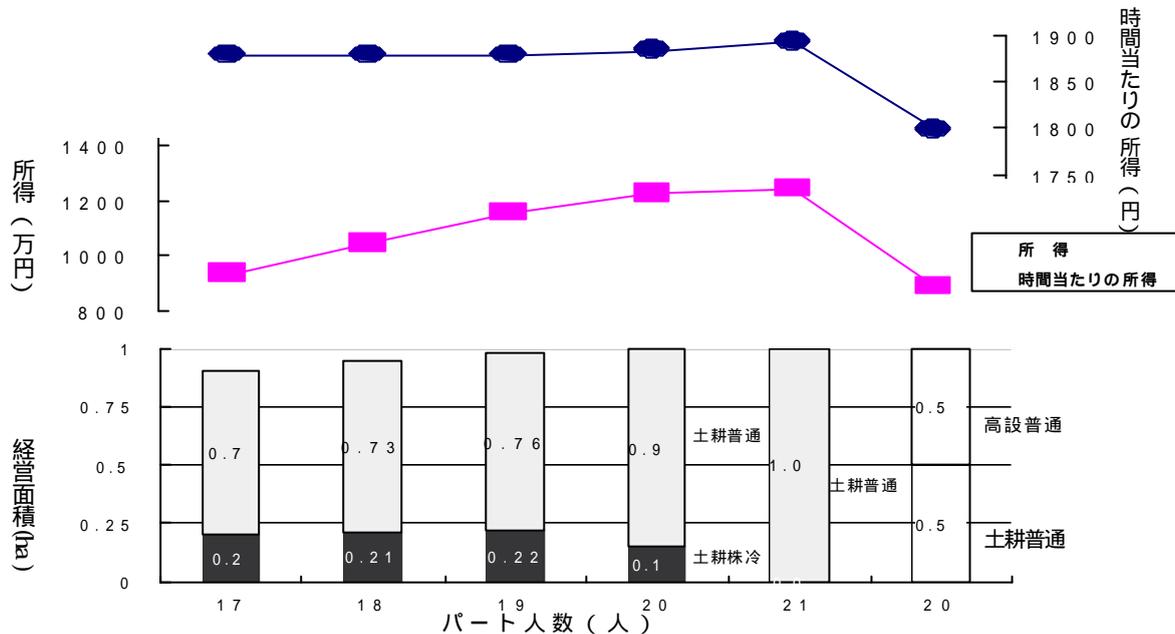


図1 パート人数と規模・所得 (平成19年)

注)1.パート人数は、旬ごと収穫作業がピークとなる3、4月の最大パート雇用人数。

表2 1ha規模のイチゴ作経営モデル (平成19年)

単位：万円

	最適解モデル	PC活用モデル	バラ詰出荷モデル ¹⁾
売上高	5,377	5,377	5,033
所 得	1,243	847	1,243
販売単価 (レギュラーパック)	1,195 円	1,195 円	1,195 円 (出荷量:50%)
販売単価 (バラ詰)	-	-	1,043 円 (")
販売経費	794	1,661 ²⁾	688 ³⁾
うちパッケージセンター(PC)手数料 ⁴⁾	-	1,080	-
支払雇用労賃	1,856	1,385	1,618
うちパート雇用労賃	856	385	618
最大雇用者数(パート)	21人	9人	14人

注)1.バラ詰出荷は、収穫後調整せずに業務用としてそのまま出荷する形態。
2.最適解モデルに比べ、パッケージセンター活用モデルはその手数料分増加する。
3.最適解モデルに比べ、バラ詰出荷モデルは通い箱の活用により、販売資材費が少ない。
4.パッケージセンター手数料はキロ当たり240円で設定され、販売資材費が含まれる。

[その他]

研究課題名：雇用労働を基幹とした大規模イチゴ作経営モデルの策定
 予算区分：経常
 研究期間：平成19年度(平成17～19年)
 研究担当者：手嶋洋司、佐伯孝浩